



平成23年度地方公営企業会計制度等の見直しに関する説明会

(札幌市：1月31日、東京都：2月2日、2月24日、仙台市：2月8日、広島市：2月14日、
大阪市：2月16日～17日、3月1日、名古屋市：2月22日、福岡市：2月29日)

地方公営企業会計制度等の改正内容の周知及び水道事業における個別の課題への認識・理解を深めていただくことを目的とし、水道事業体の経理・財務担当者1,100名の参加を得て「地方公営企業会計制度等の見直しの経緯」、「資本制度の見直し」、「会計基準の見直し」、「健全化指標への影響」等について説明会を開催した。



水道 GLP 認定証授与式

水道 GLP 認定委員会で認定及び認定の更新が決定した下記の水質検査機関の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



3月15日

甲府市上下水道局
(認定番号：JWWA-GLP079)



3月19日

君津広域水道企業団
(認定番号：JWWA-GLP034)



3月29日

(財)大分県薬剤師会
(認定番号：JWWA-GLP081)



4月12日

岡山市水道局
(認定番号：JWWA-GLP035)

第905回会誌編集委員会（3月19日）

本誌6月号の編集方針、投稿原稿の審査、新規原稿の取扱い並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。



水道 GLP マネジメント・レビュー（3月21日）

日本水道協会は、専務理事並びに関係者出席のもと、水道 GLP マネジメント・レビューを実施した。プログラムに沿って事務局から、水道 GLP の審査・認定状況、水道施行規則の改正、水道 GLP 認定バッチの着用状況等について報告した。尾崎専務理事から、水道 GLP は順調に進展しているが、今後も、水質検査機関の検査技術の向上に努めるべく審査体制の充実・強化を図るよう指示があった。



第170回工務常設調査委員会（3月22日）

JWWA 規格の改正（水道用ステンレス鋼管・継手 JWWA G 115・JWWA G 116）、今後の JWWA 規格の検討（水道用 GX 形ダクタイル鋳鉄管・異形管、水道用硬質塩化ビニル管のダクタイル鋳鉄異形管 JWWA K 131、水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法 JWWA

K 157) について審議し決定したほか、機械・電気・計装専門委員会の審議状況、JIS Q 24 510シリーズ規格原案の概要、水質の最新情報、公民連携推進のための手順書等について報告を行った。

第12回 JIS 製品認証業務運営委員会（3月26日）

はじめに、人事異動等により不在となっていた正副委員長の互選を行った。委員長は東京都水道局の木村建設部長、副委員長は水道バルブ工業会の田原専務理事が選出された。

次に報告事項として、①第9回、10回、11回の議事録について、②平成23年度におけるJIS 製品認証の業務概要について、③品質システムの有効性について、④平成23年度審査



員の評価について、⑤平成23年度内部監査の結果について、⑥平成23年度マネジメント・レビューの結果について、⑦平成24年度品質目標についてを事務局より説明した。

また、議題として、品質システム文書の改正などについて及び判定委員会委員の承認について審議を行い、異議なく了承された。

第3回 上水道施設に係わる CAD 製図基準（案）検討専門委員会（3月27日）

日本水道会館第2会議室において「上水道施設に係わる CAD 製図基準（案）」、「運用ガイドライン（案）」及び「委員会報告書」（案）の最終原稿について審議を行った。

第65回水道 GLP 認定委員会（3月27日）

水道 GLP 認定について、(株) 東海テクノ（申請番号：JWWA-GLP 082）が新規に認定された。また、認定更新検査機関として八戸広域水道企業団（認定番号：JWWA-GLP 031、3月25日付）が、認定維持検査機関として(株) 日本環境技術センター（認定番号：JWWA-GLP 059）、秋田市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP 060）、(株) 環境公害センター（認定番号：JWWA-GLP 061）、松山市公営企業局（認定番号：JWWA-GLP 062）、更新後の認定維持検査機関として北九州市水道局（認定番号：JWWA-GLP 002）、(株) 環境科学研究所（認定番号：JWWA-GLP 005）が、それぞれ審議され決定された。

第2回 耐震技術検討専門委員会（3月28日）

日本水道会館第2会議室において①第三者による性能設計チェックの必要性、②耐震設計や耐震診断の事例収集について審議を行った。

第7回 水道 GLP 運営委員会（3月28日）

日本水道協会は、平成23年度水道 GLP 運営委員会（委員長 眞柄泰基トキワ松学園理事長）を開催し、水道 GLP の審査・認定状況等を報告した。眞柄委員長から、水道 GLP は7年目を迎え、80余箇所が認定されるとともに、更新後のサーベイランスも始まっている。水道 GLP はデファクトスタンダードとして水質の信頼性向上に役立っており、引き続き審査等を通じ試験精度の確保に努め、今後は認定機関の増加に対応する審査体制の更なる充実を図るよう意見を聞いた。

